

16 アイヌ民族に関わる歴史

約20万年前	アフリカで、現生人類の属する種であるホモ・サピエンスが登場する。
約5～6万年前	ホモ・サピエンスが、アフリカを出て世界へ移動を始める。
約3万年前	日本列島に、人が住み始める。このころ、ユーラシア大陸から《ヤウンモシリ》（北海道）へも大勢の人が移り住み、移住型の生活を始める（旧石器時代）。
約1万3000年前	定住型の生活が始まり、土器を使って食べ物を保存したり、加熱した調理をしたりするようになる（縄文時代）。
約2000年前	続縄文文化が成立する。おもに本州との交易によって、鉄器が流通しはじめる。
5世紀	樺太から《ヤウンモシリ》（北海道）へ、渡来人（オホーツク文化人）がやって来て、樺太や中国大陸との交易がさかんになる。
658(斉明4)～660年	阿倍比羅夫の船団が北日本海沿岸を航海し、各地の蝦夷と交渉する（『日本書紀』）。
7～8世紀頃	続縄文文化が擦文文化に変容する。
802(延暦21)年	岩手県胆沢地方の蝦夷のアテルイらが、征夷大將軍坂上田村麻呂に降伏する。
10世紀	《ヤウンモシリ》（北海道）の一部で、渡来人（オホーツク文化人）の文化と《ヤウンモシリ》（北海道）の文化が混ざり合う。
10～11世紀頃	《ヤウンモシリ》（北海道）で、内耳鍋が使われるようになる。
13世紀	樺太で勢力を拡大しようとするアイヌ民族と、ニヴフ民族の間で争いが起こる。 安藤（安東）氏が現在の青森県に十三湊という港を整備。アイヌ民族と和人の間の交易がますます活発になる。 土器が造られなくなり、鉄製のなべや漆器、陶器などが使われるようになる。竪穴式の家から平地式の家が変わる（擦文文化の終わり）。
1264 (弘長4・文永元)年	元（モンゴル帝国）がアイヌ民族を攻撃する。ニヴフ民族にアイヌ民族と同調して戦う勢力も出てくる。
1308 (徳治3・延慶元)年	アイヌ民族と元の戦いが終わる。
1356 (文和5・延文元)年	『諏訪大明神絵詞』成立する。
14世紀	和人が《ヤウンモシリ》（北海道）の南部に進出し、「道南十二館」をつくる。

15世紀前半	津軽十三湊での交易が最盛期 1411（応永18）年明の宦官イシハが、アムール川下流部にまで遠征し、ヌルガン都司をおいて、苦夷（アイヌ民族）と朝貢交易をする。
1443(嘉吉3)年	この年までに、安東氏は南部氏との抗争に敗れ、津軽十三湊を放棄し、蝦夷島に逃れる。
1456(康正2)年	東部のアイヌ民族が蜂起（志濃里の鍛冶がマキリのできばえについてアイヌ民族の男性と争い、これを殺害したのが原因）。
1457 (康正3・長祿元)年	東部アイヌ首長・コシャマインが、道南十二館を攻撃するが、敗れる（コシャマインの戦い）。
1550(天文19)年	蠣崎季広、東西のアイヌ民族と講和し、「夷狄の商舶往還の法度」を制定する。
1593(文祿2)年	蠣崎慶広、肥前名護屋の陣営で豊臣秀吉に拝謁し、志摩守に任じられる。慶広は東西のアイヌ民族を招集し、秀吉より送られた朱印状をアイヌ語に訳して読み聞かせる。
1599(慶長4)年	蠣崎慶広、姓を松前に改める。
1604(慶長9)年	徳川家康が松前慶広に黒印状を送り、アイヌ民族と独占的に交易をする権利をあたえ、松前藩が成立する。
17世紀前半	松前藩が、商場知行制を導入。
1669(寛文9)年	東部アイヌ首長・シャクシャインが松前藩を攻撃するが、幕府の応援を得た松前藩に敗れる（シャクシャインの戦い）。
18世紀	松前藩は、本州の商人に、《ヤウンモシリ》（北海道）内で商業を行う権利をあたえるようになる（場所請負制）。商人たちはアイヌ民族を働かせて中国や本州への輸出品を得るようになる。
1770(明和7)年	ロシアの狩猟者たちがウルップ島に来て、同じラッコ猟に来ていたエトロフのアイヌ民族に乱暴、長老が殺害された。翌年エトロフのアイヌ民族はロシア人を襲撃、20人余を殺害、ロシア人は逃亡した（『休明光記』巻之六）。
1789 (天明9・寛政元)年	クナシリ島やメナシ地方で、商人の横暴に対するアイヌ民族の戦いが起こる。しかし、戦いの中心となった37人の男性が処刑される（クナシリ・メナシの戦い）。
1799(寛政11)年	ロシアの南下に備えて、幕府は《ヤウンモシリ》（北海道）を直接支配するようになる。
1807(文化4)年	幕府、松前・西蝦夷一円を上知。松前藩は転封となる。
1821(文政4)年	幕府、松前・蝦夷地を松前家に返還。
1854 (嘉永7・安政元)年	日米和親条約が結ばれ、翌年箱館港が開港。
1855(安政2)年	日露和親条約により、《ルトム》（千島列島）はウルップ島以北をロシア領とし、《ヤンクモシリ》（樺太）は和人もロシアも住む「雑居地」ということになる。
1868(明治元)年	江戸幕府がたおれ、明治政府が成立する。

1869(明治2)年	明治政府、開拓使を設置。明治政府により、《ヤウンモシリ》が「北海道」と名付けられる。
1871(明治4)年	戸籍法制定。アイヌ民族を「平民」に編入。 開拓使、死亡の際に自家を焼く習慣・女性の入れ墨・男性の耳環を禁じ、日本語を学ぶよう布達。
1872(明治5)年	開拓使、札幌・小樽周辺諸郡のアイヌ民族男女36名を上京させ、開拓使仮学校と開拓使官園で教育をする。「地所規則」・「北海道土地売賃規則」を定める。
1875(明治8)年	「樺太・千島交換条約」により、800人以上の樺太アイヌが北海道の宗谷へ、さらに翌年には対雁へ強制的に移住させられる。
1876(明治9)年	猟を行う時のしかけ弓矢毒矢が禁止される。各地のアイヌ民族が延期を求める嘆願をするが、禁止を強行。この頃、北海道内のアイヌ民族の戸籍が完成する。
1878(明治11)年	開拓使、アイヌ民族の呼称を「旧土人」に統一するよう達する。サケ漁が禁止される。
1882(明治15)年	開拓使が廃止され、札幌・函館・根室の三県が設置される。
1884(明治17)年	千島アイヌ97人が占守島から色丹島へ強制的に移住させられる。
1886(明治19)年	三県と北海道事業管理局が廃止され、北海道庁が設置される。
1889(明治22)年	道庁が、道内の鹿猟を全面禁止とする。
1899(明治32)年	「北海道旧土人保護法」公布。
1900(明治33)年	道庁、近文の「給与予定地」の大倉喜八郎らへの払い下げを決定(その後、アイヌ民族の運動の結果、取り消し)。
1901(明治34)年	道庁、「旧土人児童教育規定」を制定。
1904(明治37)年	日露戦争が起こる。少なくとも63人のアイヌ民族が呼び寄せられ日本軍として出兵。
1918(大正7)年	武隈徳三郎の『アイヌ物語』刊行。
1923(大正12)年	知里幸恵の『アイヌ神謡集』刊行。
1930(昭和5)年	違星北斗の『コタン』刊行。
1939(昭和14)年	第二次世界大戦が起こる。
1945(昭和20)年	日本敗戦。千島、樺太のアイヌ民族の多くが北海道以南へ移住。
1946(昭和21)年	「北海道アイヌ協会」が設立される。
1951(昭和26)年	サンフランシスコ講和条約。
1964(昭和39)年	東京オリンピック開催。
1972(昭和47)年	札幌冬季オリンピック開催。沖縄返還。
1980(昭和55)年	関東地方に移住したアイヌ民族の団体「関東ウタリ会」結成。

1984(昭和59)年	北海道ウタリ協会総会、「アイヌ民族に関する法律(案)」を決議。
1986(昭和61)年	当時の首相・中曽根康弘が「日本は単一民族国家」と発言。これに関東ウタリ会、北海道ウタリ協会(北海道アイヌ協会が改称した組織)が抗議。
1987(昭和62)年	国連総会で、アイヌ民族の代表が日本の民族問題について発言。
1988(昭和63)年	北海道庁、北海道議会、北海道ウタリ協会が「アイヌ民族に関する法律」制定について国に要望する。
1994(平成6)年	萱野茂がアイヌ民族初の国会議員となる。
1997(平成9)年	アイヌ文化振興法公布。旧土人保護法が廃止となる。
2002(平成14)年	北海道庁において「伝統的生活空間(イオル)再生構想の具体化に向けて」を策定。
2006(平成18)年	国はアイヌ民族の伝統的生活空間(イオル)の再生事業を白老地域において先行実施。
2007(平成19)年	国連が「先住民族の権利に関する国際連合宣言」を採択。
2008(平成20)年	国会で、「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が全会一致で採択。 アイヌ民族が日本列島北部周辺、とくに北海道に先住していた人びとであり、独自の言語や宗教、文化をもつ「先住民族」と認められる。政府の「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」設置。
2009(平成21)年	社団法人北海道ウタリ協会から、公益社団法人北海道アイヌ協会に名称変更。 「アイヌ政策推進会議」(座長:内閣官房長官)発足。 ユネスコ世界無形文化遺産リストに重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」が登録される。
2013(平成25)年	「伝統的工芸品産業の振興に関する法律(経産省)」の伝統的工芸品に「二風谷《イタ》」と「二風谷《アットウシ》」が指定される。 イランカラブテキャンペーンが始まる。
2014(平成26)年	「アイヌ文化の復興等を促進するための「民族共生の象徴となる空間」の整備及び管理運営に関する基本方針」が閣議決定。
2019 (平成31・令和元)年	法律に初めてアイヌ民族を「先住民族」と位置付けた新法「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」公布。アイヌ文化振興法は廃止された。
2020(令和2)年	アイヌ文化の復興等を目的とする「ウポポイ(民族共生象徴空間)」開設予定。

【参考文献】

北原モコットウナン監修、葦島栄紀監修『アイヌ もっと知りたい! くらしや歴史』岩崎書店、2018年8月